

温室効果ガス削減シナリオ策定 調査検討会報告書概要

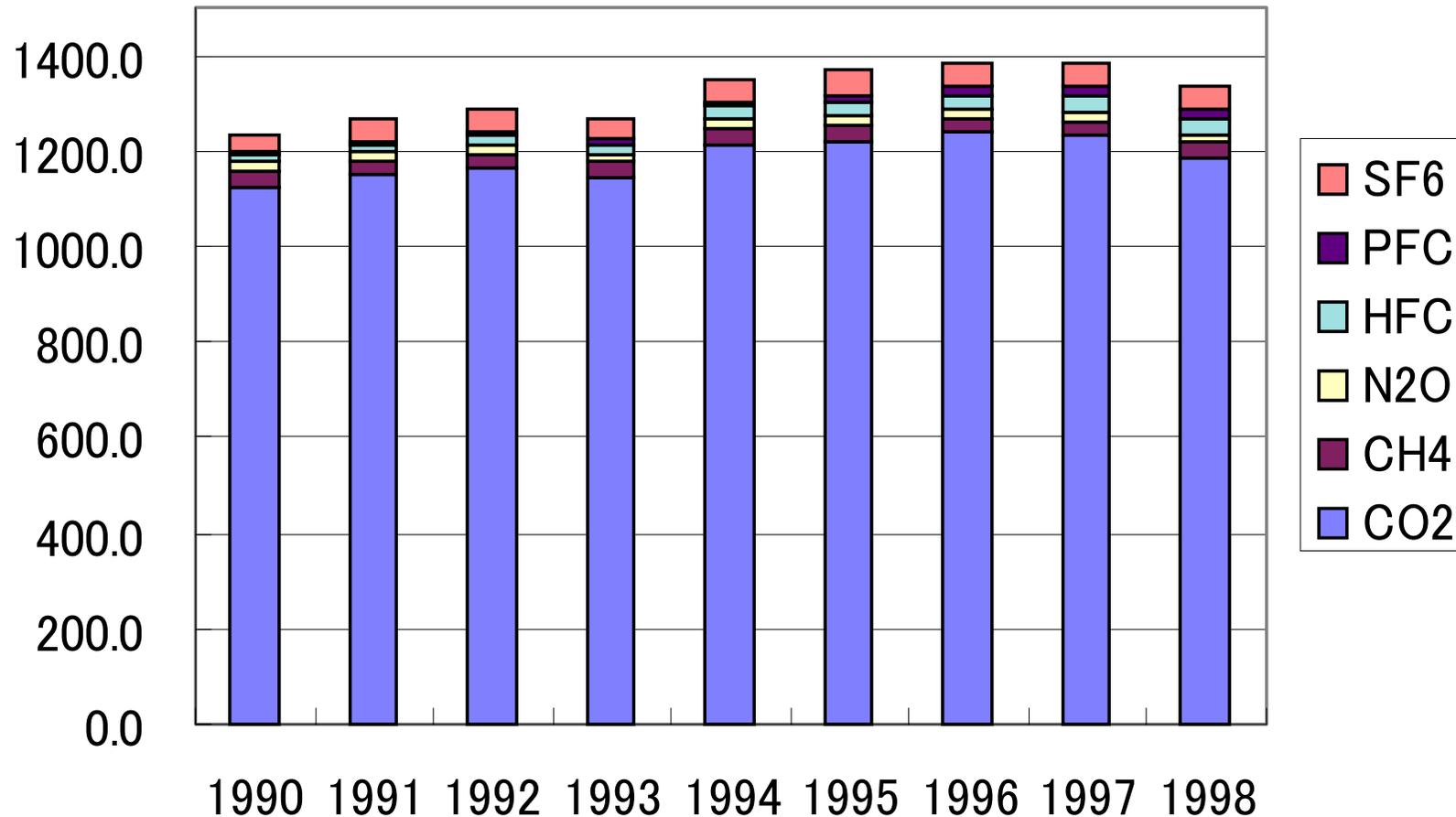
環境省地球環境局

目次

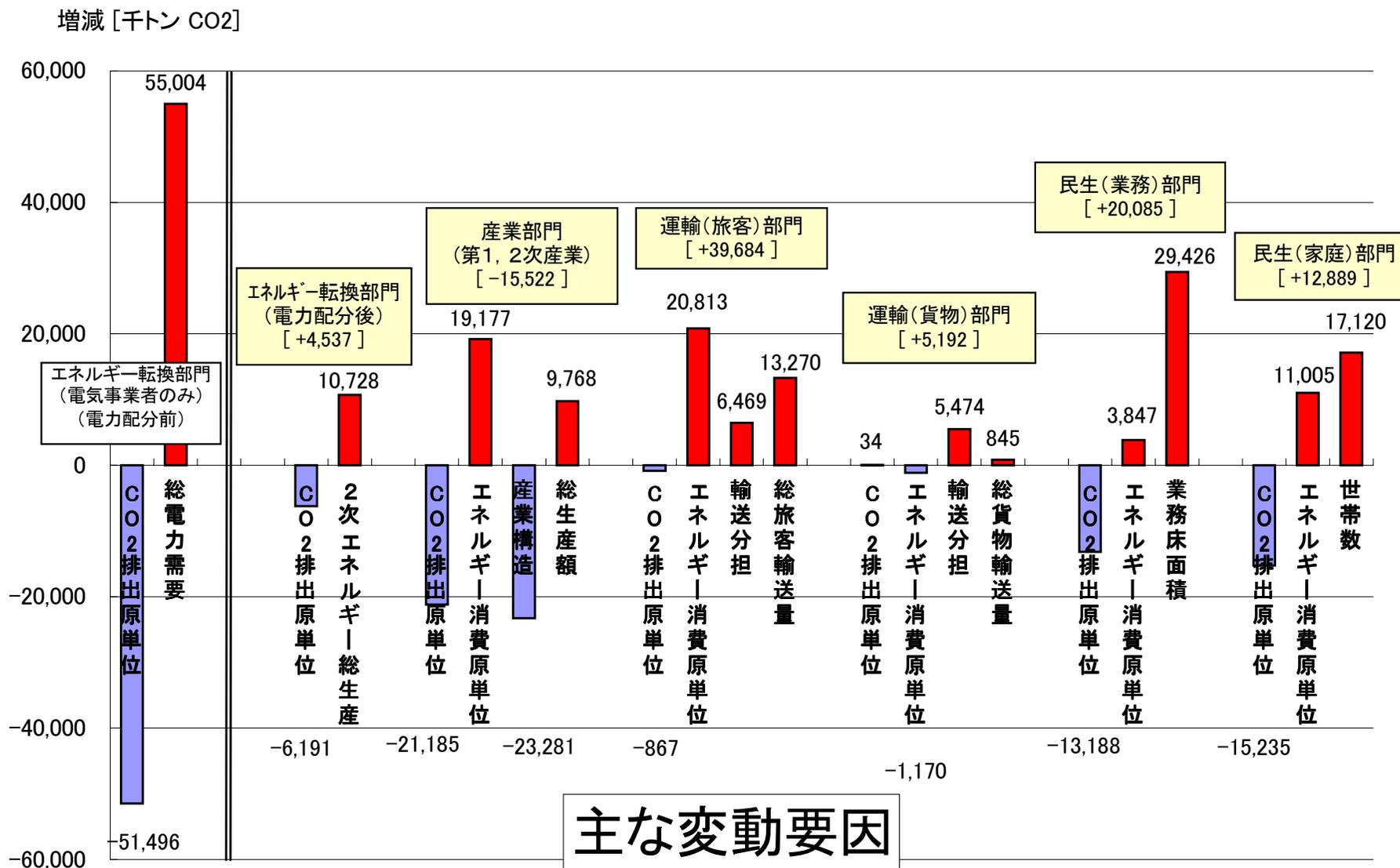
- 90年以降の排出量増減(実績)の要因分析
- 大綱に基づく2010年の排出量推計
- 2010年の温室効果ガス削減ポテンシャル
- 今後の検討方針

温室効果ガス排出量の推移

- 1998年度の総排出量は、13億3600万t-CO₂であり、基準年比約5%の増加。



排出量増減(実績)の要因分析



要因分析のまとめ

増加：運輸部門←旅客輸送量の増加
民生業務部門←業務用床面積の増加
民生家庭部門←世帯数の増加

減少：産業部門←産業構造変化

部門横断的要因

増加：エネルギー消費原単位の増大
産業、運輸（自動車の大型化、渋滞）
民生家庭（家電製品の普及、大型化）

減少：電力のCO₂排出係数の改善（産業、民生）

大綱に基づく2010年の排出量推計

固定ケース

- 1998年大綱策定時まで導入された政策・対策を考慮しそれ以降は政策・対策の効果がないと想定して設定。

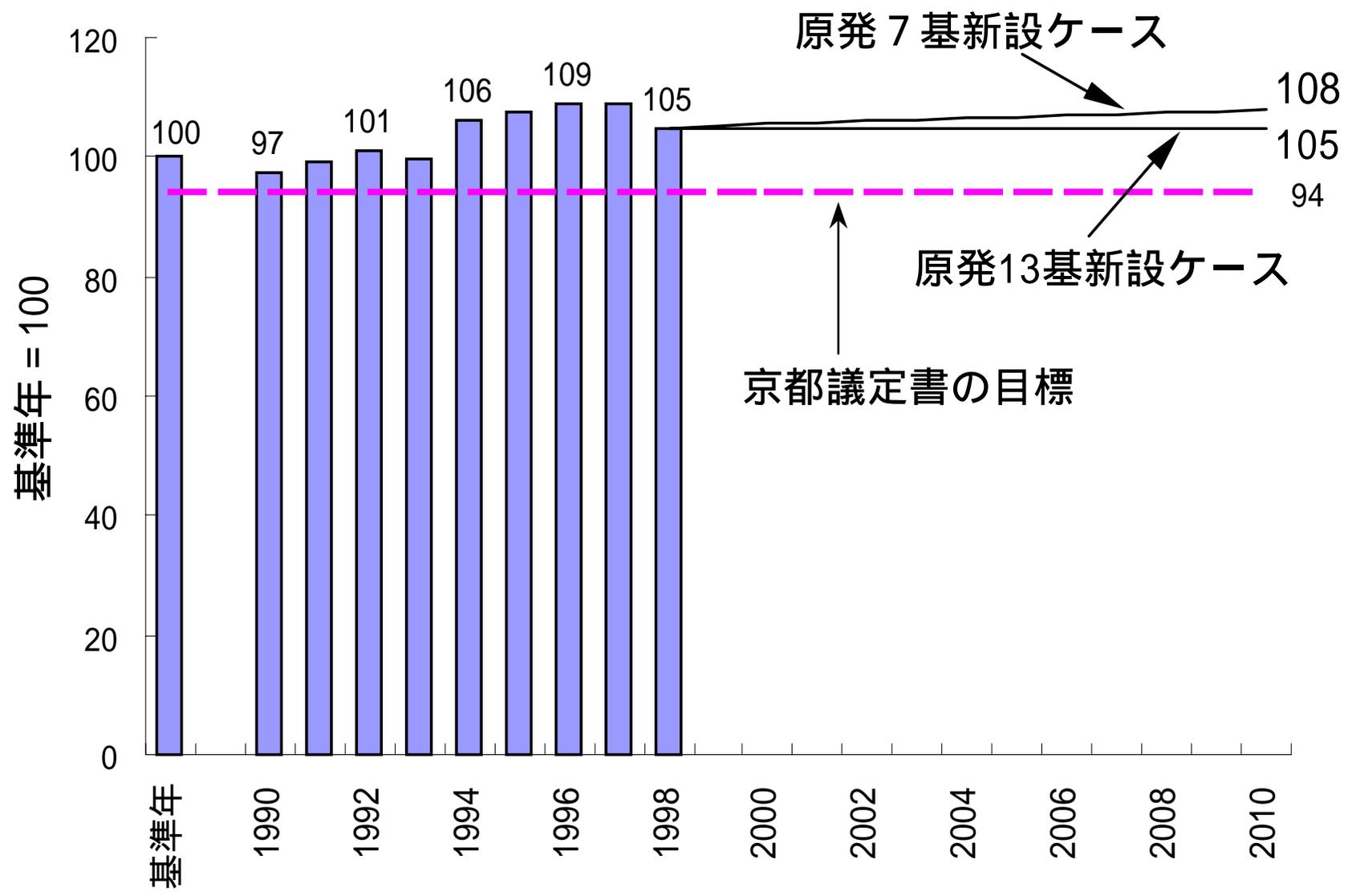
計画ケース

- 2001年2月までに決定された確実性の高い政策・対策が実施されることを想定して設定。

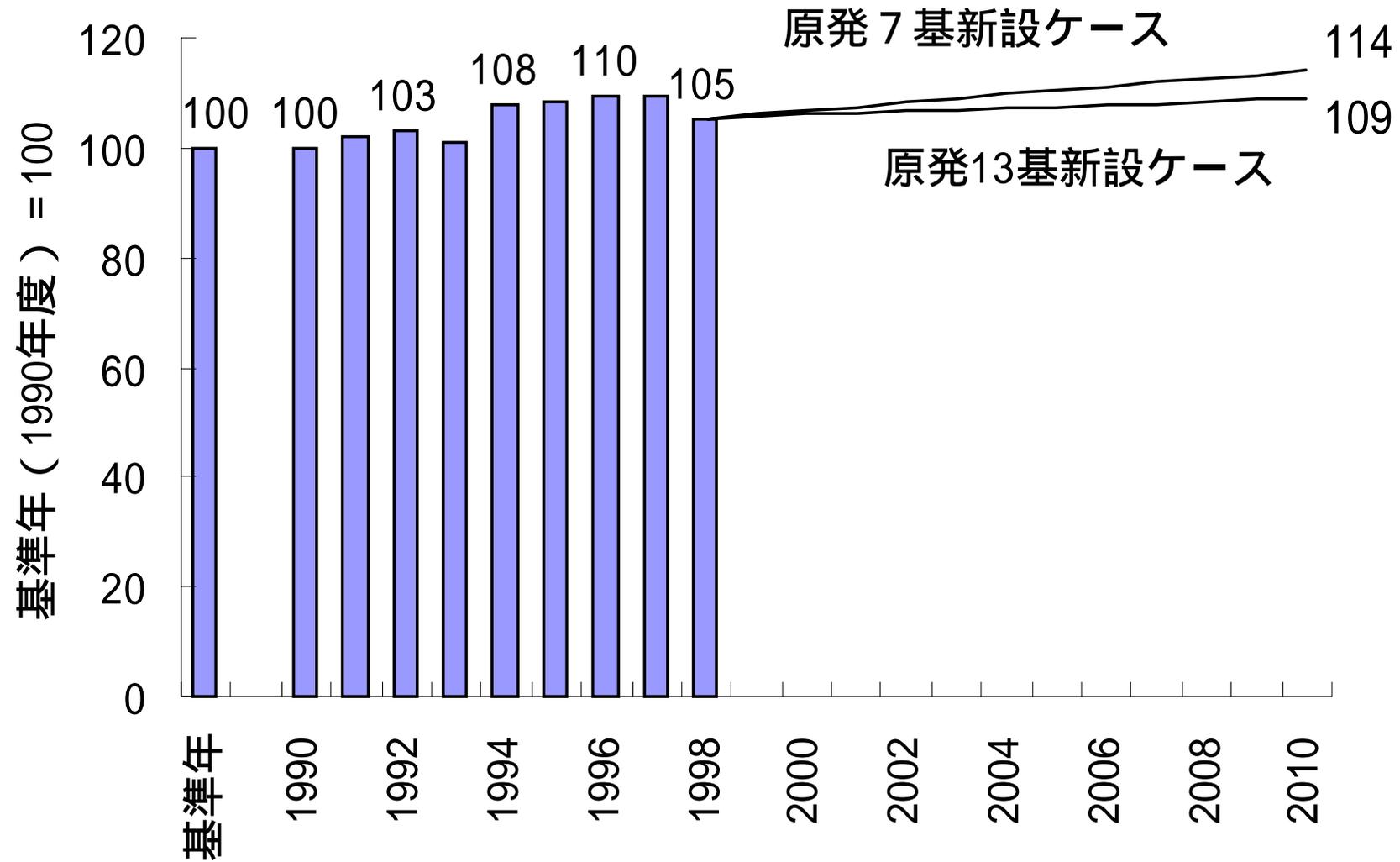
活動量のシナリオ

- 関係省庁で発表されている最新の主要経済活動指標の将来予測値を参考に設定。

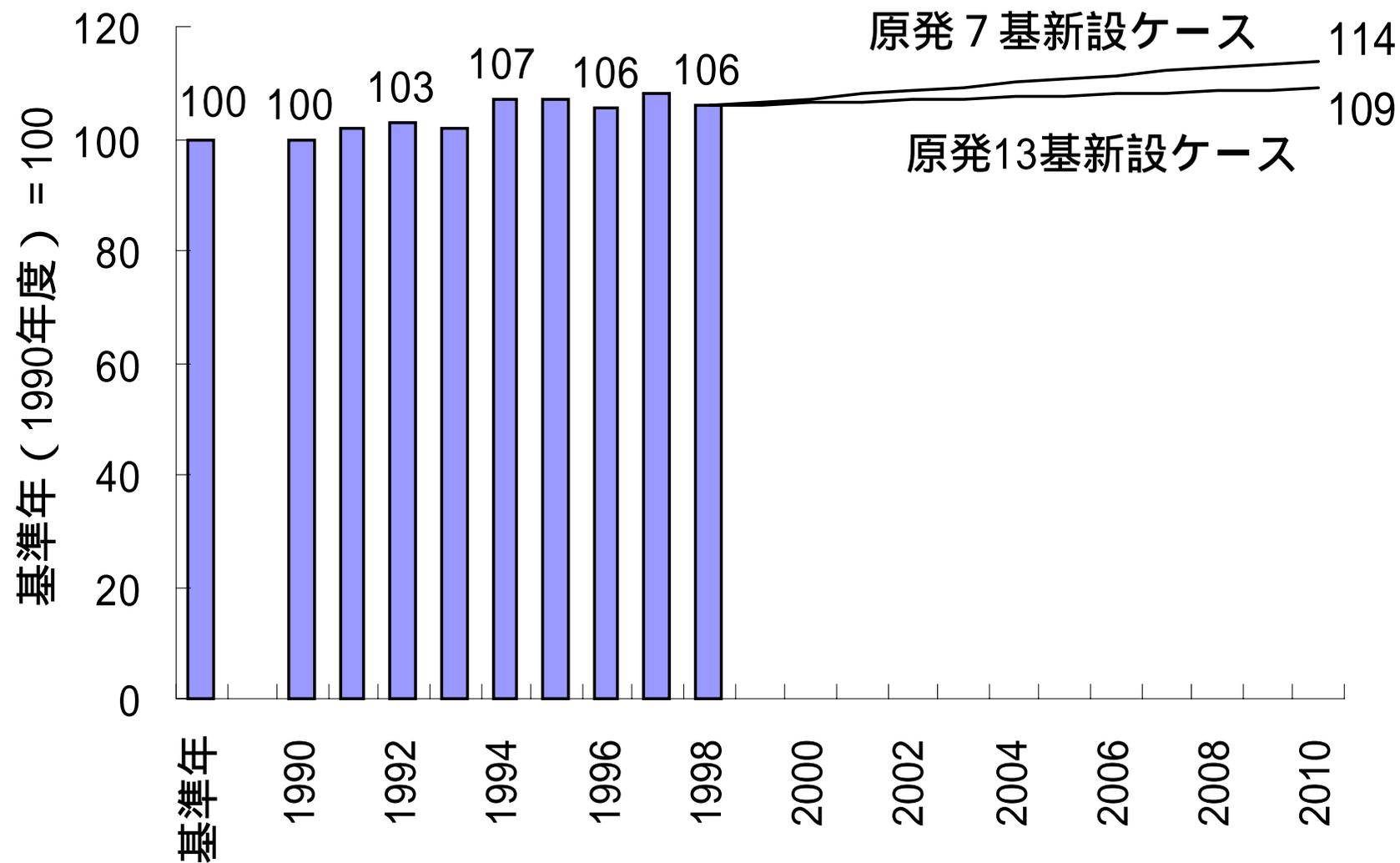
2010年のGHG排出量予測結果



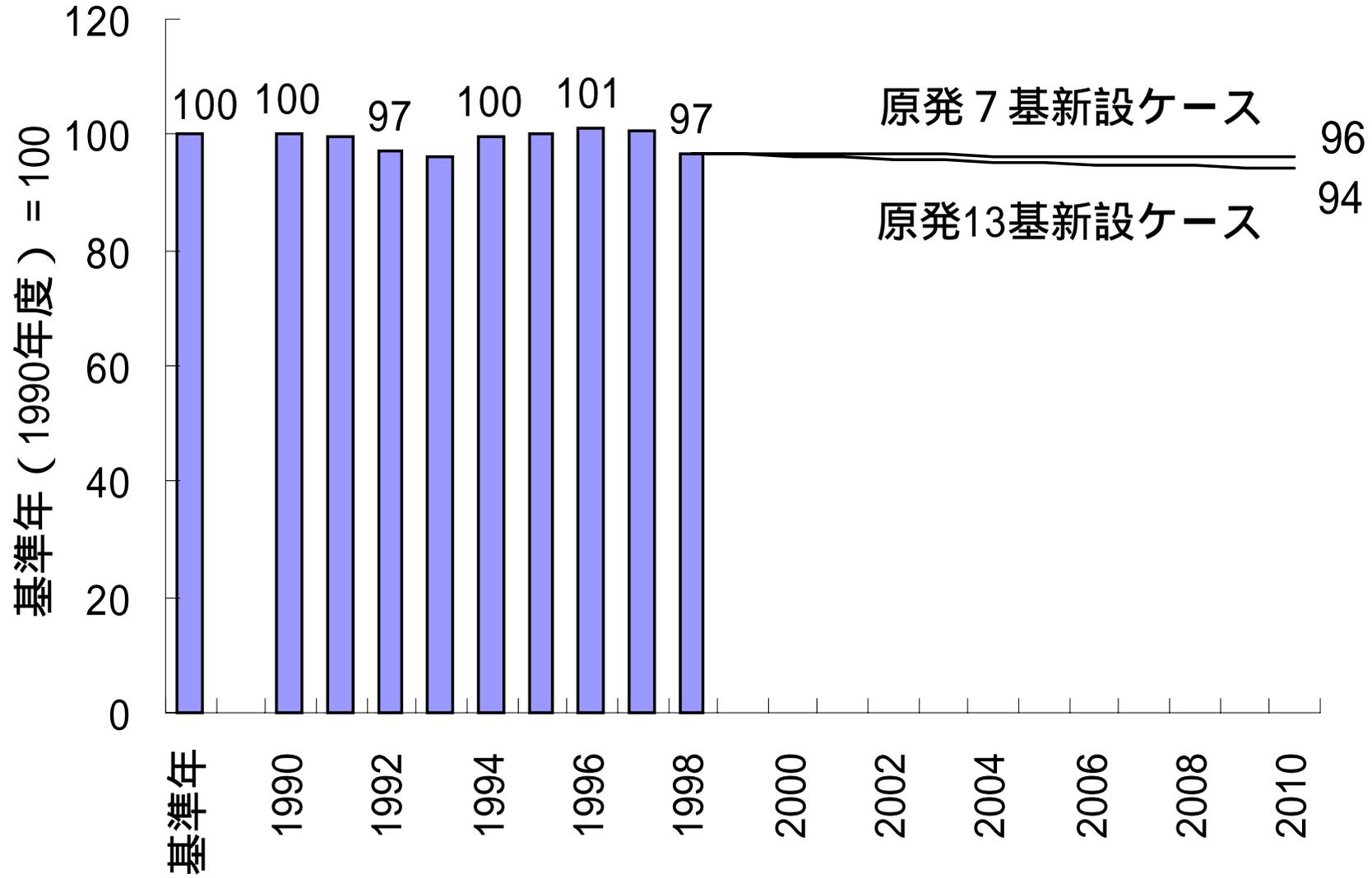
エネルギー起源CO₂排出量



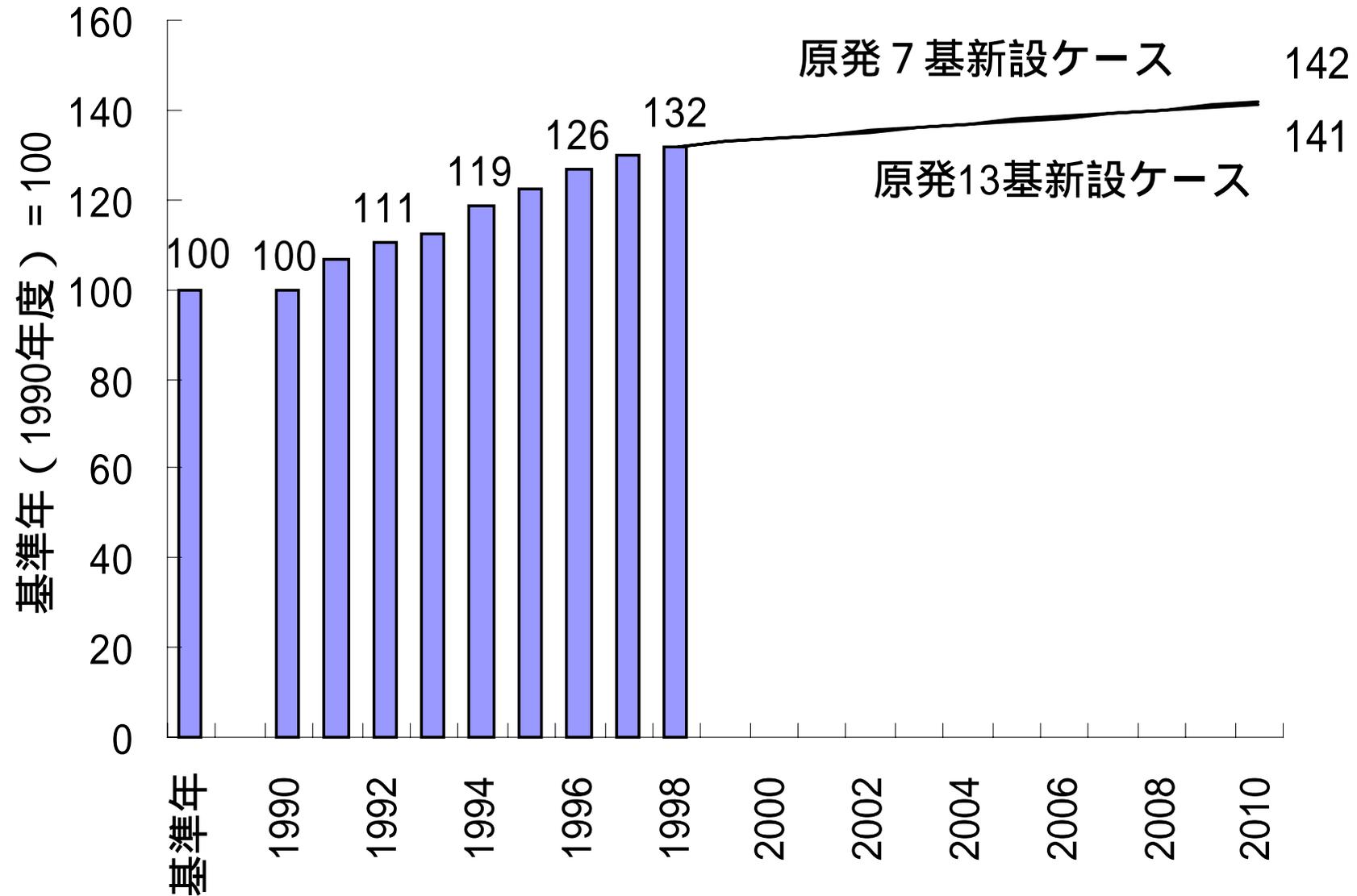
エネルギー転換部門排出量



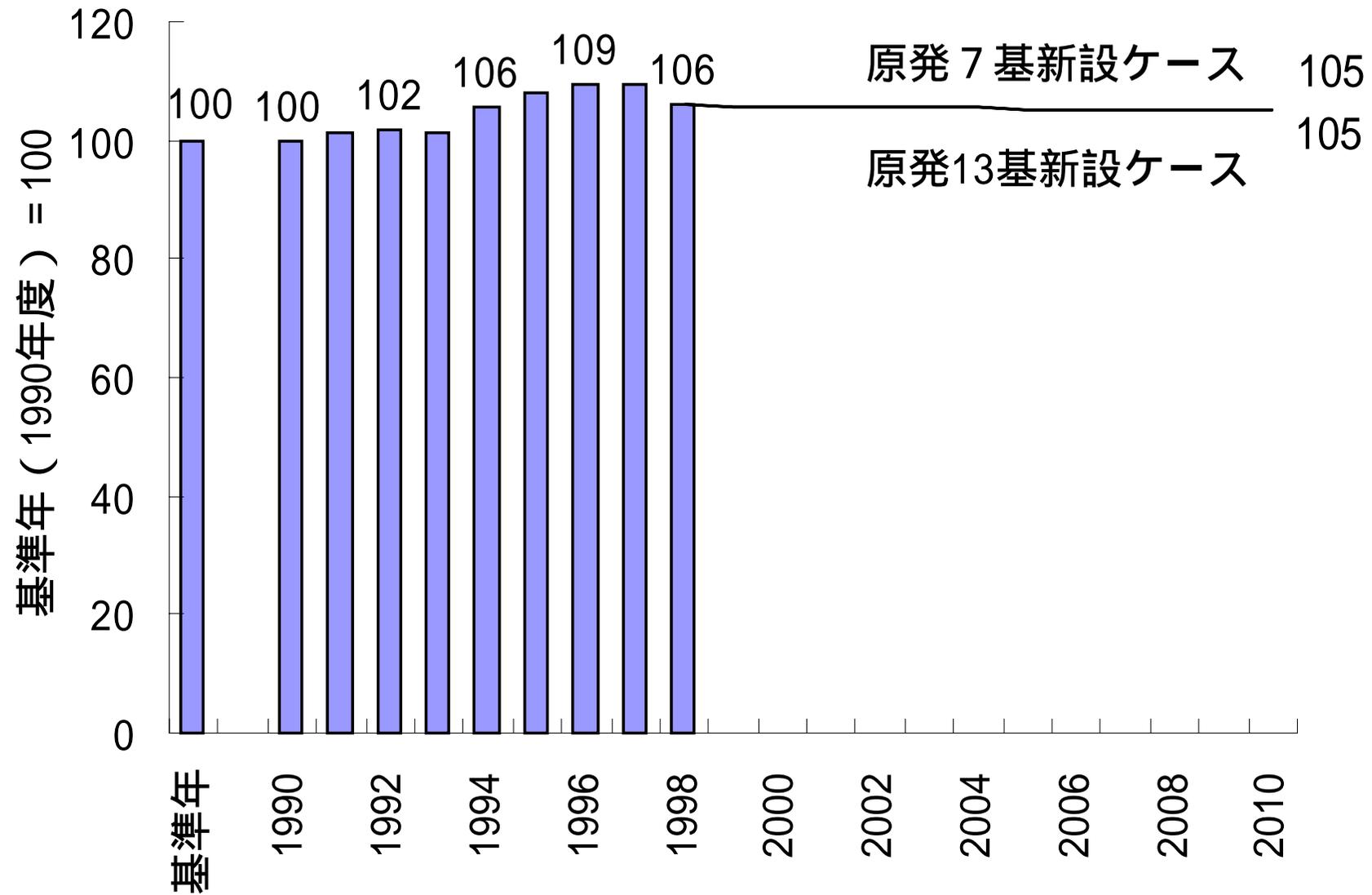
産業部門排出量



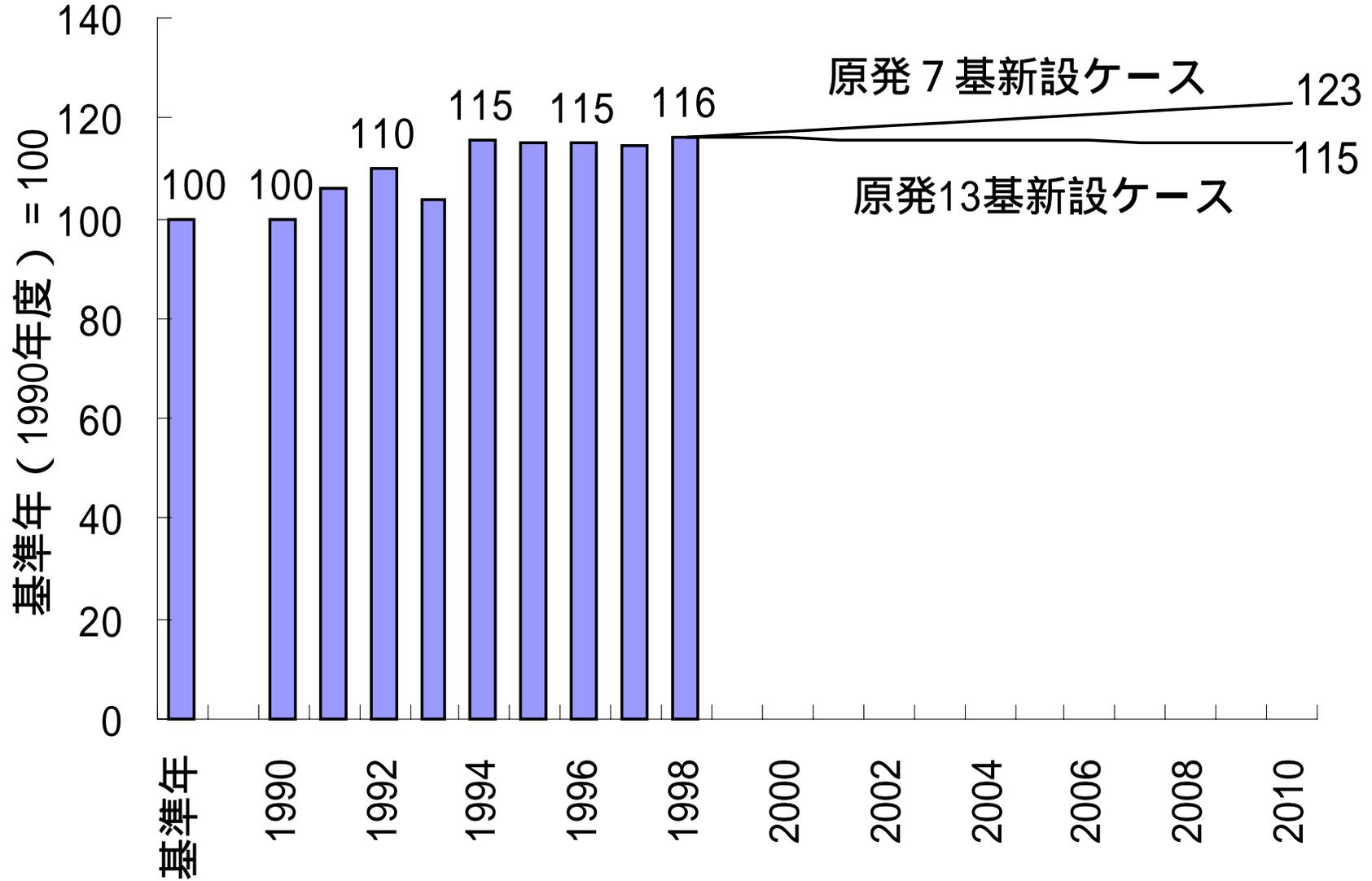
運輸(旅客)部門排出量



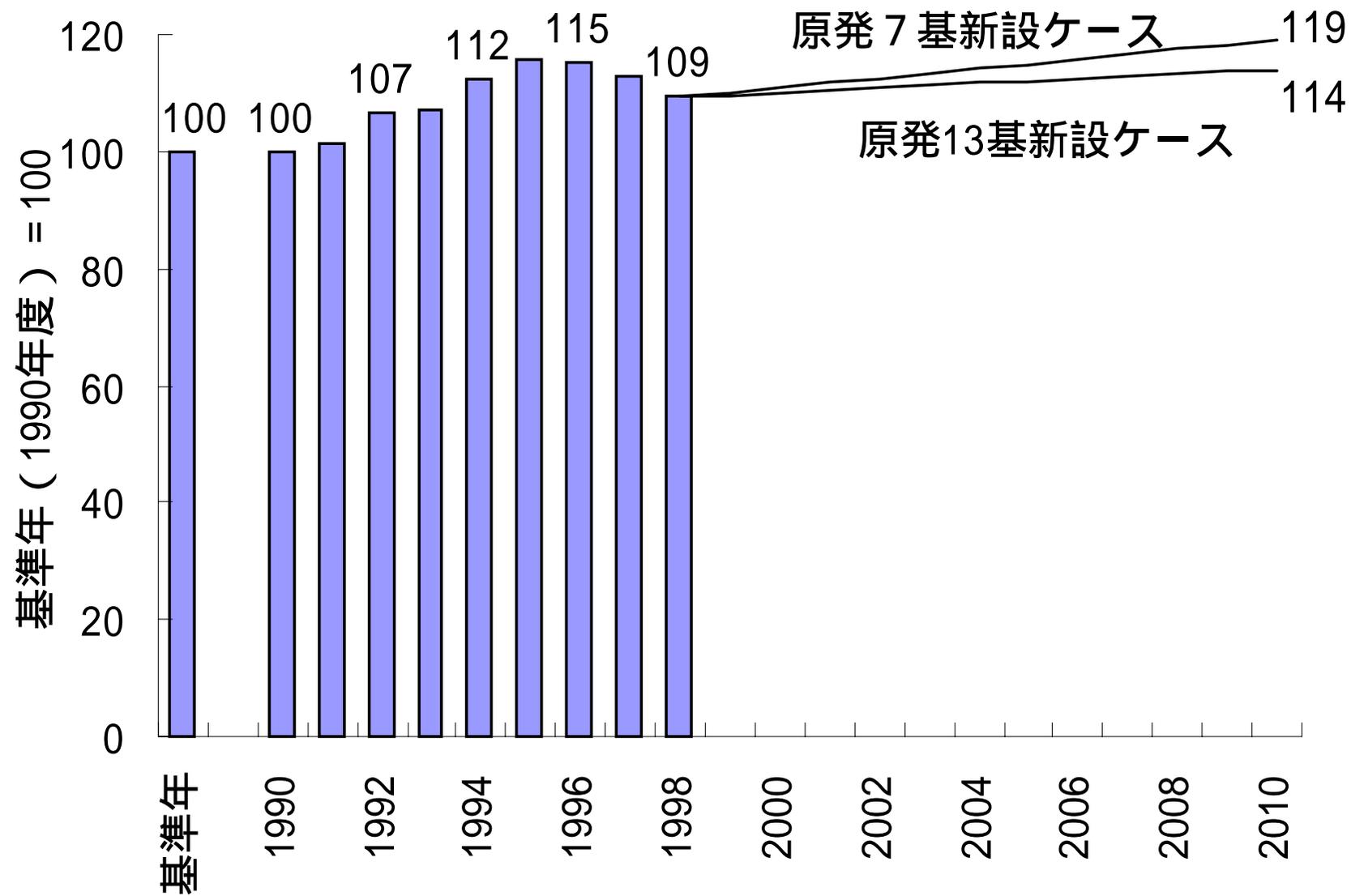
運輸(貨物)部門排出量



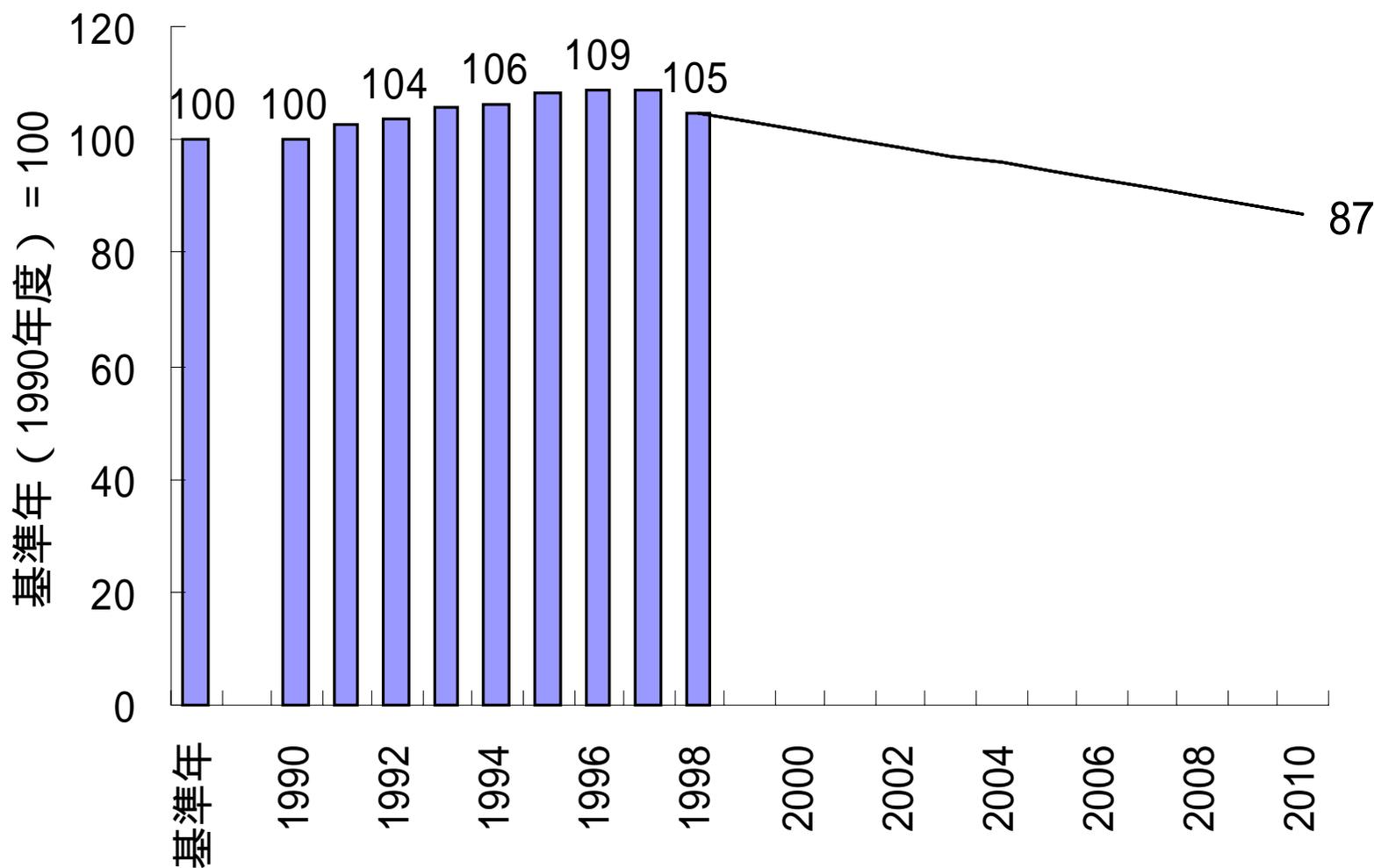
民生(業務)部門排出量



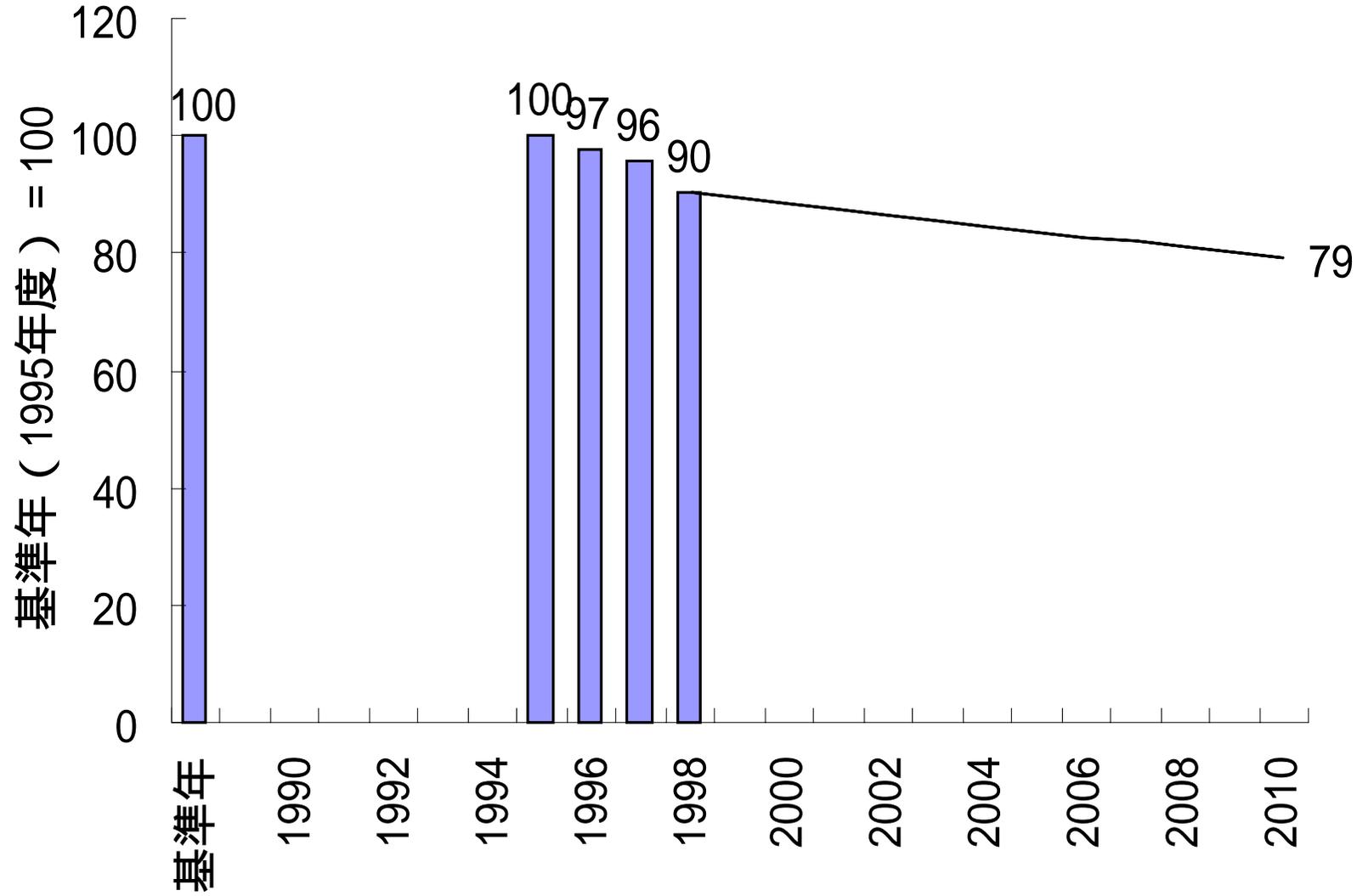
民生(家庭)部門排出量



非エネルギー起源CO₂ メタン・N₂O排出量

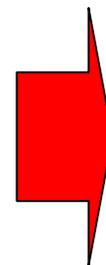


HFC等3ガス排出量



2010年の排出量予測まとめ

原発13基新設ケース→5%増
原発 7基新設ケース→8%増



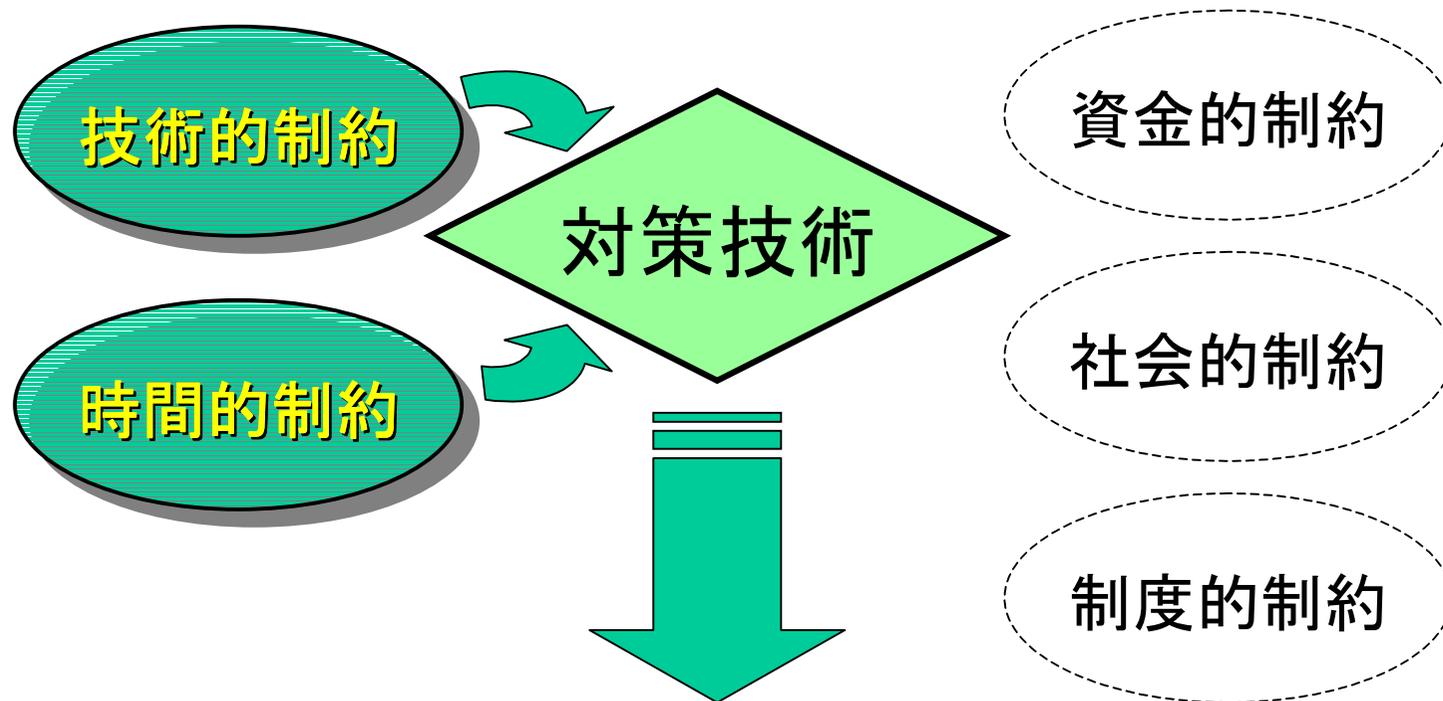
目標達成には
さらに14%
削減が必要

大綱の目標値との比較

増加: エネルギー起源CO₂→9.3%増加(目標: ±0%)
エネルギー転換→+11%(+5%) 産業→-4%(-7%)
運輸→+25%(+17%) 民生→+27%(±0%)

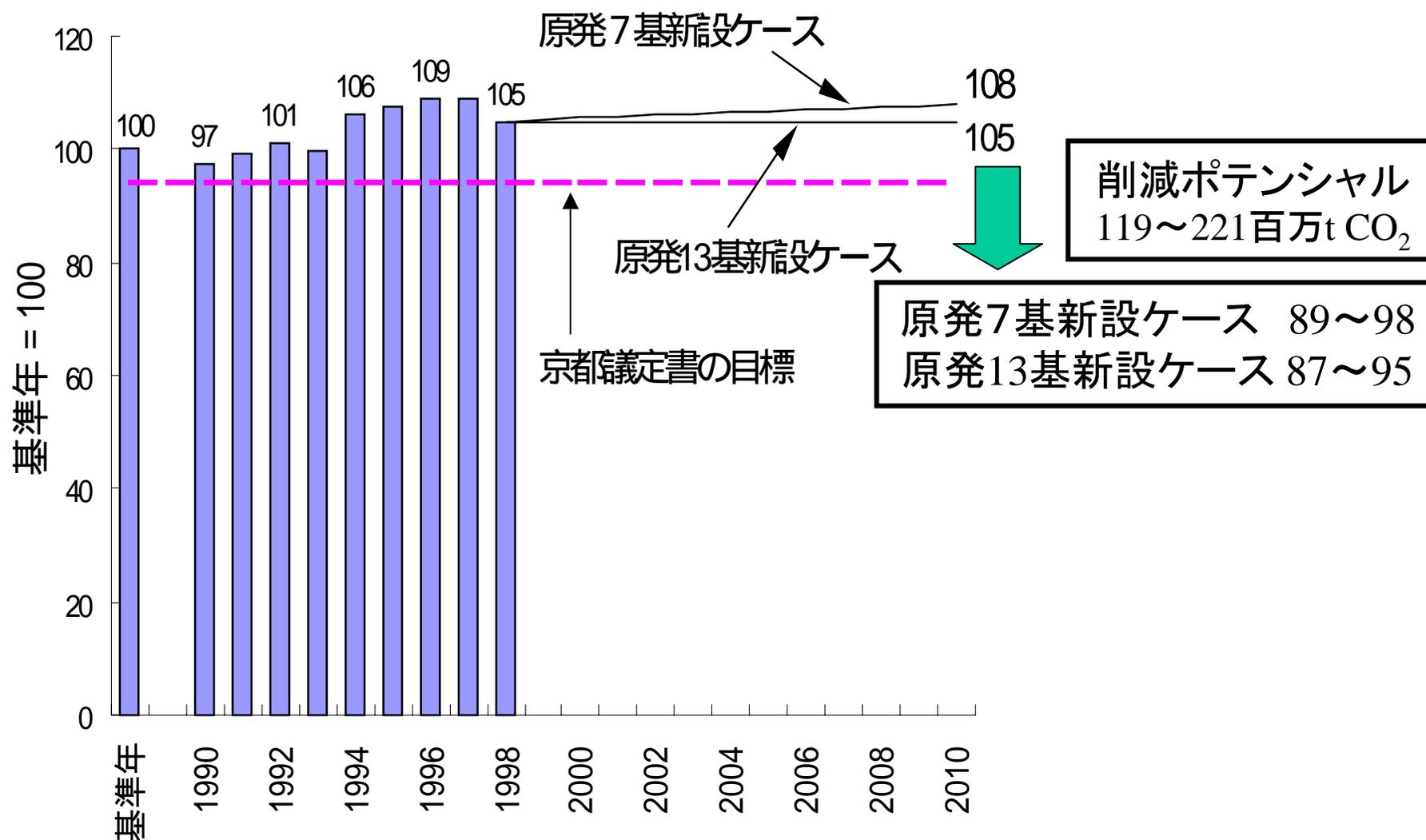
減少: 非エネルギー起源CO₂、
CH₄、N₂O→-0.8%(目標: -0.5%)
HFC等3ガス→-0.9%(目標: +2%)

2010年の温室効果ガス 削減ポテンシャル

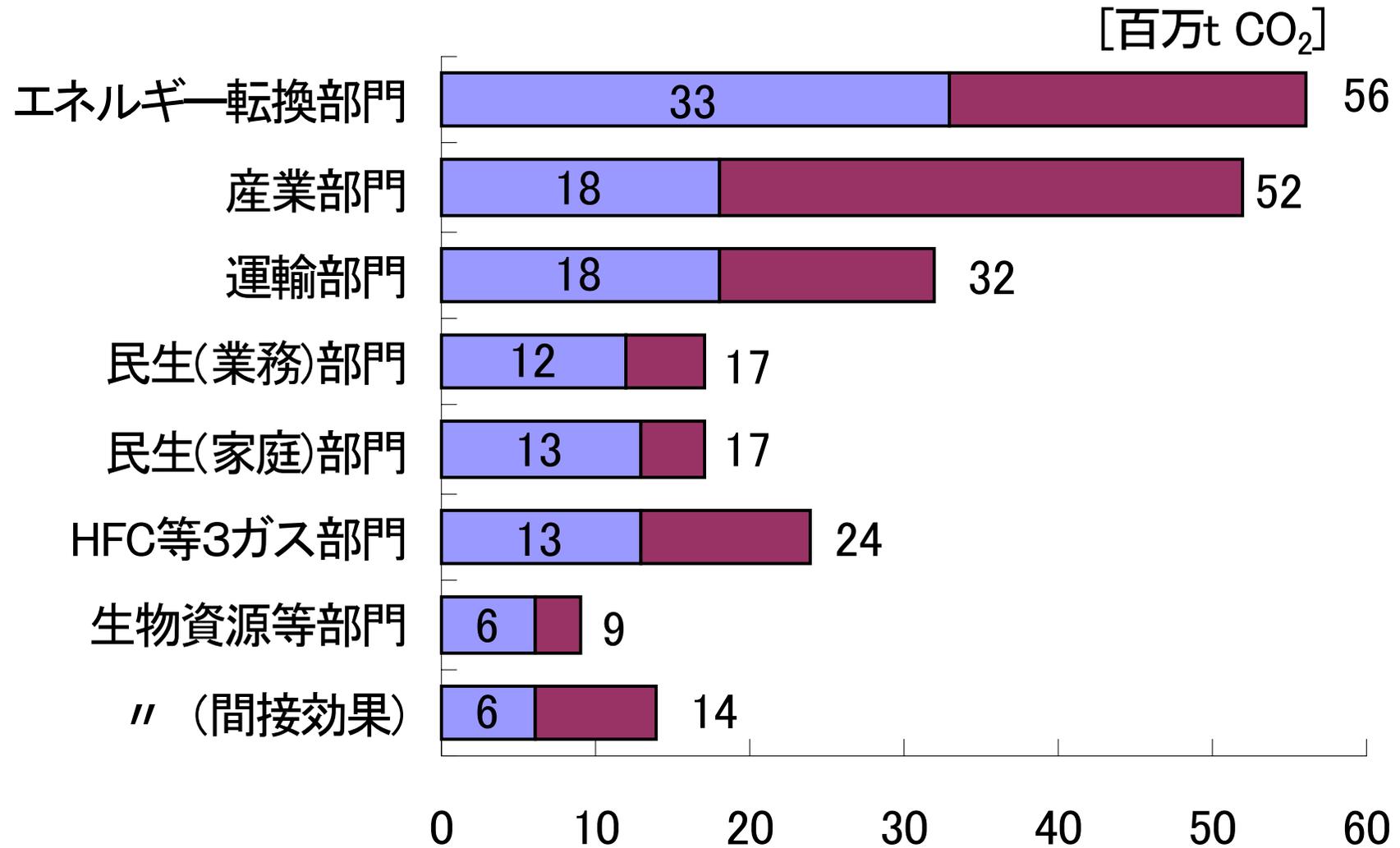


資金的、社会的、制度的な条件をある程度捨象した場合の技術的観点からの削減ポテンシャルを算定

計画ケースに対して追加的に、 12～18%相当分の削減が可能

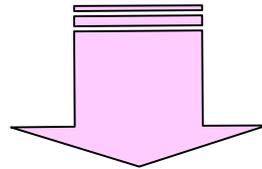


各部門別削減ポテンシャル



今後の検討方針

- 目標達成に向けた部門別削減量の精査
- 技術的対策の開発・導入のインセンティブを与える対策推進メカニズムの検討



目標達成シナ
リオ小委員会

国内制度
小委員会